

ち た はん どう
知多半島
い じん す かん
偉人図鑑



ち た はん どう
知多半島
い じん す かん
偉人図鑑

ち た はん どう ほつてん
知多半島の発展を
ささ たいしめうこう
支えた偉人たちが大集合。
みなさんの地域の
い じん ちいき
偉人をさがしてみましよう。

知多半島 偉人図鑑

偉人発見 マップ

知多半島には、産業や文化、教育など、さまざまな分野で活躍した偉人がたくさんいます。みなさんの地域の偉人をさがしてその生涯や仕事ぶりを調べてみましょう。



偉人図鑑の見方

「ごんぎつね」の作者 新美 南吉

1913年～1943年

ゆかりのある市町：半田市、知多郡美浜町、安城市、東京都中野区

生まれたところ：知多郡半田町(現 半田市)

半田市 児童文学者

名前とひとこと説明

生まれた年・亡くなった年

市町名と職業など

偉人の似顔絵

楽しい説明

中学生のころから創作活動をはじめ、18歳で「ごんぎつね」を発表します。病気に苦しむ29歳で亡くなりましたが、たくさん童話、小説、童謡をつくりました。ふるさと半田を舞台に心の通い合いや美しい生き方などを描いた作品は、日本人の人に親しまれています。

知多半島偉人図鑑に掲載する人物は、知多5市5町の推薦に基づき、知多市町会において選考しました。

江戸幕府をひらいた将軍家康の母 於大の方

1528年～1602年

ゆかりのある市町：知多郡東浦町、刈谷市、岡崎市、知多郡阿久比町、新城市

生まれたところ：緒川城(現 知多郡東浦町大字緒川)

東浦町 徳川家康の母

戦国時代、東浦町にあった水野氏の緒川城に誕生。14歳で岡崎城主松平広忠と結婚し、徳川家康を産みます。しかし、水野氏が織田方についたため、3歳の家康を残して離縁されました。その後、阿久比の坂部城主久松俊勝と再婚し、家康の天下統一を支えました。

知多四国八十八か所をひらいた 岡戸 半蔵

1752年～1824年

ゆかりのある市町：知多郡阿久比町

生まれたところ：福住村(現 知多郡阿久比町大字福住)

阿久比町 修行者

古見妙楽寺の亮山上人と出会い、知多四国霊場をひらこうと田や畑を売って資金をつくりました。その後、四国の武田安兵衛も加わり、三人で寺々へ霊場になってくれるようお願いしていきます。文政7年(1824)、八十八か所のお寺を決め、弘法大師像の開眼供養をしました。

江戸時代の名君の先生 細井 平洲

1728年～1801年

ゆかりのある市町：東海市、山形県米沢市

生まれたところ：平島村(現 東海市荒尾町)

東海市 儒学者

江戸時代の儒学者で、実践を重んじた教えは、政治や教育に大きな影響を与えました。特に、名君とたたえられた米沢藩主の上杉鷹山(治憲)公の先生として、また、尾張藩校明倫堂の初代校長としても有名です。東海市には、その功績を伝える施設や記念碑などがあります。

日本で最初の真の国際人 音吉

1817年頃～1867年

ゆかりのある市町：知多郡美浜町

生まれたところ：小野浦村(現 知多郡美浜町大字小野浦)

美浜町 船乗り

千石船の船乗りで嵐に遭い太平洋を14か月漂流後、日本に帰国。本人で初めて米国、英国へ上陸、マカオで世界初の聖書訳に協力しました。日本人漂流民の帰国援助の他、日英和親条約の通訳として尽力し、上海、シンガポールで貿易商として活躍、日本の開国にも関わったとされます。

土管をつくった常滑の「陶祖」
鯉江 方寿
1821年～1901年

ゆかりのある市町 ▶ 常滑市

生まれたところ ▶ 瀬木村 (現 常滑市瀬木)



常滑市
実業家

明治時代の初期、木の型を使って同じ形の土管を大量につくことに成功。土管のつくり方を確立し、常滑焼を大きく発展させました。また、新しい田んぼの開発や新しい便器を発明し、「常滑美術研究所」もつくりました。毎年、11月3日に陶祖祭が開催されています。

海を田に変え、新しい農業に挑戦
森田 萬右衛門
1852年～1934年

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡武豊町

生まれたところ ▶ 富貴村 (現 知多郡武豊町大字富貴)



武豊町
議員

村会議員の時に海を田に変えることを計画。森万新田と呼ばれる新しい田んぼを開発しました。また、それまでの「べたまき」よりも優れた「短冊型なわしろ」という新しい農業の方法を積極的に取り入れました。木曾川からの用水の必要性を説き、愛知用水発案の父とも言われています。

日本にトマトの食文化を広めた
蟹江 一太郎
1875年～1971年

ゆかりのある市町 ▶ 東海市

生まれたところ ▶ 名和村 (現 東海市名和町)



東海市
創業者

カゴメの創業者。現在の東海市荒尾町周辺で食用トマトの栽培に取り組み、そのトマトから、1903年に初めてトマトソースをつくります。その後、ケチャップやトマトジュースなどもつくり、東海市の上野工場をはじめ国内にたくさんの工場を建て、「トマト王」と呼ばれました。

知多半島に乗りバスを走らせた
内田 佐七
1878年～1969年

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡南知多町

生まれたところ ▶ 内海町 (現 知多郡南知多町大字内海)



南知多町
創業者

大正7年、内海自動車合資会社(知多乗合バスの前身)をつくり、内海～武豊間で乗合バスの事業を始めます。知多銀行頭取、知多郡会議長、敷島製パン取締役、日本通信株式会社社長などをつとめ、南知多や知多半島の観光、産業、交通の発展に大きな役割を果たしました。

たくさんの布が織れる織機を開発
竹内 虎王
1855年～1931年

ゆかりのある市町 ▶ 知多市

生まれたところ ▶ 岡田村 (現 知多市岡田)



知多市
実業家

木綿製造業を手がけながら、品質の良い布がたくさん織れる織機の研究にうちこみ、明治31年に「竹内式動力織機」の特許を取りました。明治34年には、竹内木綿工場をつくり、後に丸登織布工場に発展させます。知多の岡田が知多木綿の一大産地となる土台をぎざぎざしました。

日本のバイオリンづくりの先駆け
鈴木 政吉
1859年～1944年

ゆかりのある市町 ▶ 大府市

生まれたところ ▶ 名古屋宮出町 (現 名古屋市東区)



大府市
創業者

鈴木バイオリン製造の創業者。尾張藩士の長男として生まれ、家業の三味線づくりを手伝いながら、バイオリンの研究にうちこみ、日本のバイオリン製作者の先駆けとして高く評価されました。大府の横根町に建てた工場は、研究にうちこむ拠点となりました。政吉がつくった会社は今、名古屋でピアノやチェロなどもつくっています。

ニワトリの飼育で世界に知られる
高橋 広治
1885年～1979年

ゆかりのある市町 ▶ 大府市

生まれたところ ▶ 静岡県磐田郡笠西村 (現 静岡県袋井市)



大府市
養鶏家

世界的な養鶏(ニワトリの飼育)の第一人者。名古屋コーチンという名前で有名なニワトリの改良に取り組み、大府の梶田町に養鶏の専門研究所をつくりました。ニワトリがオスカメスカを見わかる方法を海外に広めたほか、カゴで飼う方法を考え出し、ブラジル政府からも表彰されました。北山小学校の近くに、石碑が建てられています。

タイルづくりで常滑に貢献
伊奈 長三郎
1890年～1980年

ゆかりのある市町 ▶ 常滑市

生まれたところ ▶ 常滑町 (現 常滑市奥条)



常滑市
創業者

伊奈製陶(後のINAX、今のLIXIL)の創業者。大正時代に建てられた帝国ホテルのタイルをつくるなど、近代の常滑窯業の発展と開発に力をつくしました。その大きな貢献によって、常滑は町から市へと発展し、常滑町長、初代常滑市長としても活躍しました。

よ だま ひろ ちようちよう
四つ玉そろばんを広めた 町長
さかきばら まことろう
榎原 孫太郎
1893年～1974年

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡武豊町

生まれたところ ▶ 知多郡武豊町



武豊町
教育者

名古屋で教師となり、そろばんを広めようと努力します。はやくから四つ玉そろばんの便利さに注目し、文部省(今の文部科学省)に五つ玉そろばんから四つ玉そろばんへ変更するよう提案しました。その後、県会議員をつとめ、武豊町では合併後の2代目町長として活躍しました。

てんのうへいか こくご せんせい こくぶんがくしゃ
天皇陛下の国語の先生で国文学者
ひさまつ せんいち
久松 潜一
1894年～1976年

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡東浦町、東京都立川市、東京都葛飾区、名古屋市、半田市

生まれたところ ▶ 藤江村(現 知多郡東浦町大字藤江)



東浦町
国文学者

東京帝国大学(今の東京大学)の教授をしたり、当時の皇太子(今の天皇陛下)に国語を教えたりしました。ヨーロッパやアメリカへも国文学の研究員として行き、万葉集の研究、国語辞典の編集をしたほか、東浦町や全国の校歌の作詞などもしています。

きよだい ほうせきがいは
巨大な紡績会社をきずいた
つづき りょうへい
都築 良平
1908年～1982年

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡阿久比町

生まれたところ ▶ 阿久比村(現 知多郡阿久比町大字植大)



阿久比町
実業家

昭和3年に家業を継ぎますが、不況と社会が不安定になる中で倒産の危機にたたされます。しかし、銀行からお金を借りて輸出向けの織機へと切り替え、都築紡績をきずきました。また、都築英会をつくり、国立大学への進学をめざす学生を奨学金で応援しました。

「ごんぎつね」の作者
さくしゃ
にいみ なんきち
新美 南吉
1913年～1943年

ゆかりのある市町 ▶ 半田市、知多郡美浜町、安城市、東京都中野区

生まれたところ ▶ 知多郡半田町(現 半田市)



半田市
児童文学者

中学生のころから創作活動をはじめ、18歳で「ごんぎつね」を発表します。病気に苦しみ29歳で亡くなりますが、たくさんの童話、小説、童謡をつくりました。ふるさと半田を舞台に心の通い合いや美しい生き方などを描いた作品は、日本中の人に親しまれています。

こくみんきょういく ちから
国民教育に力をつくした
もり のぶさう
森 信三
1896年～1992年

ゆかりのある市町 ▶ 半田市・知多郡武豊町・兵庫県尼崎市

生まれたところ ▶ 知多郡武豊町



半田市
教育哲学者

神戸大学などで先生をしながら、教育に関する本を書いたり、全国で講演をしたりと、国民教育が行われ広まるように力をつくしました。提案した「立腰教育」は、自分で考え行動できる人間を育てる教育のお手本とされ、「国民教育者の師匠」と尊敬されています。

あいちようすい ちこうけん
愛知用水をつくるため貢献
くの しょうたろう
久野 庄太郎
1900年～1997年

ゆかりのある市町 ▶ 知多市

生まれたところ ▶ 知多町(現 知多市八幡)



知多市
農家

大干ばつに苦しんでいた知多地域に用水を建設しようと、協力を求めて各地を回りました。「愛知用水開発期成会」をつくり、資金集めのために自分の田や畑を売ったとされます。3万ヘクタールの農地に水を送り、上水・工業用水をまかなう愛知用水の建設のきっかけをつくりました。

どくじ ほんぶんか けんきゅう
独自の発想から日本文化を研究
うめはら たけし
梅原 猛
1925年～

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡南知多町

生まれたところ ▶ 宮城県仙台市



南知多町
哲学者

日本を代表する哲学者。梅原日本学を開拓し、スーパーカブキ、はなびろ、かつどう、こくまいほんぶんか、歌舞伎の創作など、幅広く活動しています。国際日本文化研究センターの創設に力をつき、初代所長になりました。京都市立芸術大学学長、ものづくり大学の初代総長をつとめ、日本ペンクラブ会長にも就任しました。

だい だい ほんけいだんれんかいちよう
第13代日本経団連会長
さかきばら さだゆき
榎原 定征
1943年～

ゆかりのある市町 ▶ 知多郡美浜町

生まれたところ ▶ 神奈川県横須賀市



美浜町
実業家

名古屋大学大学院を出た後、東レで炭素繊維を開発し、技術の進展と経済の発展に力をつくしました。その貢献は日本だけでなく、世界でも認められています。東レの社長・会長をつとめ、平成26年には第13代日本経済団体連合会会長に就任しました。